

# 熊本地震「被災者に眠れる場所を」

## 熊本地震被災地で、 総社野口健さんが活動報告

熊本地震被災地で、  
車中泊を強いられてい  
る住民にテントを提供  
する活動に取り組むア  
ルピニストの野口健さ  
ん(42)が29日、総社市  
役所で活動報告を行っ  
た。

総社市の環境観光大  
使を務めている野口さ  
んが同市や四国の自治  
体、国際医療NGO「A

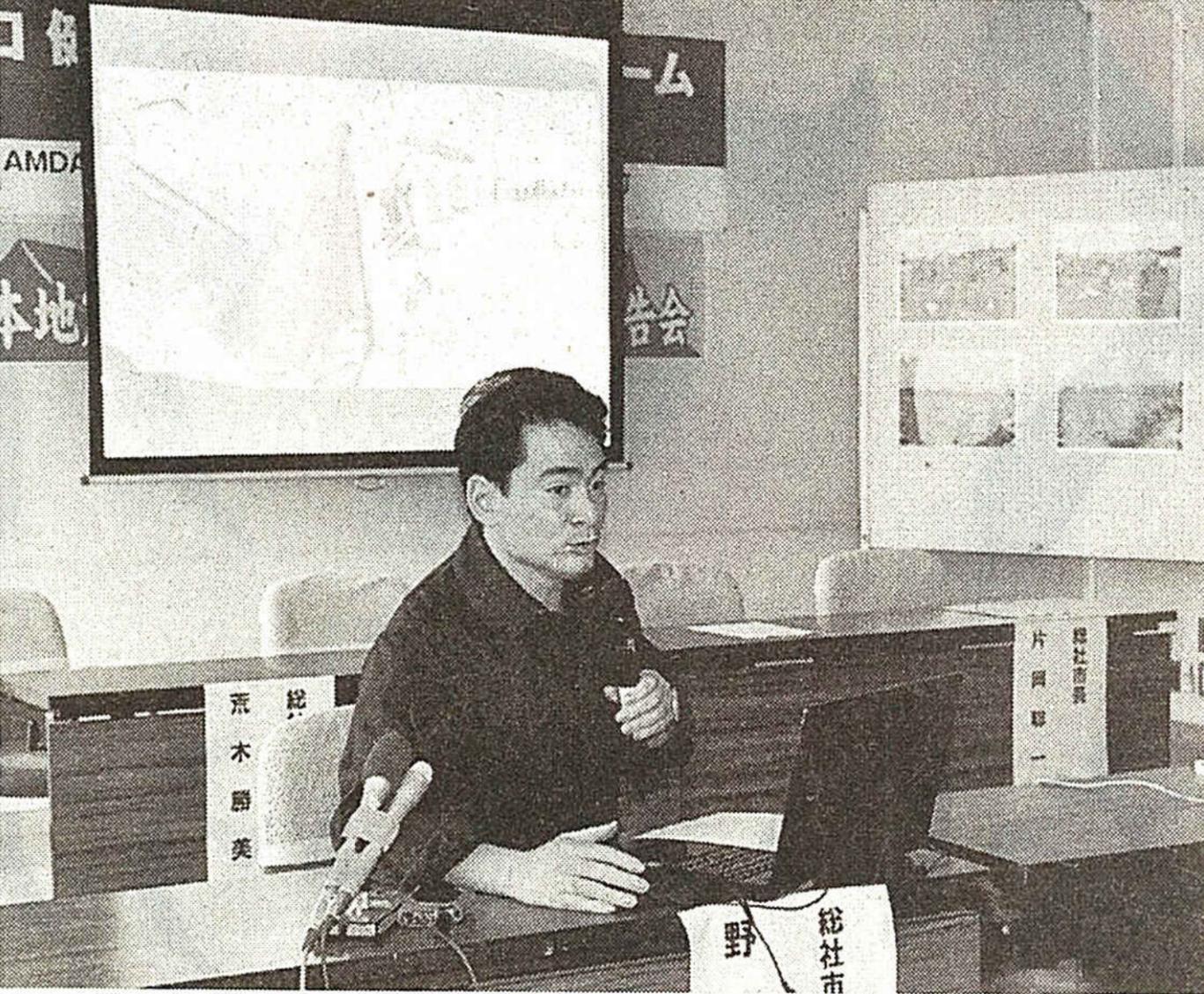
MDA」(本部・北区)  
などと合同で行う「熊  
本地震テントプロジェ  
クト」で、24日から熊  
本県益城町総合運動公  
園の陸上競技場にテン  
ト村を開設。28日現在  
で118世帯444人  
が入居している。野口  
さんがテントを提供  
し、派遣された自治体  
職員らが場所の確保や

テント村のルール作  
り、入居の手続きを行  
い、AMDAの医療チ  
ームが入居者たちの健  
康管理を行っている。

この日、野口さんは、  
支援を始めた当初、「体  
調を崩す人が出たり、  
犯罪が起きたら責任が  
とれるのか」などと非  
難されたことに言及。

「安心して寝る場所が  
無いことは精神的に追  
い詰められる。一日も  
早く支援をという気持  
ちだった」と話した。  
30日には再度、被災地  
に入り、自らテントを  
増設する予定という。

【林田奈々】



熊本県での「テントプロジェクト」活動を報告する野口さん—総社市中央1の市役所で